国際ﾛｰﾀﾘｰ第2620地区
静岡第5ｸﾞﾙｰﾌﾟ

POWER HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一歩前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレッツォ/第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 /会長 加藤惠司 /幹事 鈴木 亮
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラアクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中ＲＣ

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary

第1031回例会9月30日（火）AM7:30～8:30

■会場：オークラアクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
■司会：井熊正浩 末広さくら ■点鐘：加藤惠司 ■週報：匂坂幸治
■ロータリーソング：「奉仕の理想」
■ゲスト：はままつ nanet 代表世話人・事務局長 鈴木まり子様
米山記念奨学生 オウ・ウテイさん
例会見学者 石原孝之様（紹介者：華岡博之会員）

出席報告/スマイル報告

会員数 67 名（内出席免除会員 3 名）
出席数 52 名 出席率 81.25%

スマイル提出者氏名掲載
職業奉仕委員会・加藤会長・鈴木幹事
青山素久会員

会長挨拶 会長 加藤惠司

おはようございます。
今日は、鈴木まり子様をお招きして、
「浜松市における災害対策ローカルネットワーク構築に向けて」
と題して卓話を頂きます。
東海地震が起きる起きると言われ続けて早何十年、気持ちのどこかでは
来るんだろうなとは思っていますが、具体的備えはまた今度また今度となっている
のが現状です。
今日はそんな気持ちに活を入れるお話を期待しております。
鈴木様、よろしくお願い致します。

話は変わりますが、前回に引き続き石原さんが見学にお見えです。
毎回見学者が来ていただくといいなと期待しております。
また後で紹介させて頂く時間があると思いますが、11 月には卓話をしていただく予定をしています。
クラブの活性化のために、いろいろな背景をお持ちの方が会員になっていただければと、期待しております。

10 月 15 日には、第 1 回交流会も企画されていますので、みなさんも時間の都合のつく方はできるだけご参加頂きたいと思います。
それでは今日もよろしくお願い致します。

幹事報告 幹事 鈴木 亮

1．レターケースにロータリーの友 10 月号を配布しました。
2．地区より台風 15 号による被害に対しての、義援金の依頼が来ております。
ご協力よろしくお願いいたします。
3．12/6，7 の地区大会の出欠を取っております。出席の方は松本副幹事までお知らせください。
4．本日例会終了後にメイフェアの間で第 3 回役員理事会議を行います。出席義務者は、例会終了後速やかにメイフェアの間にご移動お願いします。
5．例会見学に元焼津市議会議員の石原孝之さんがお越し頂いております。ご挨拶を頂戴します。

委員会報告

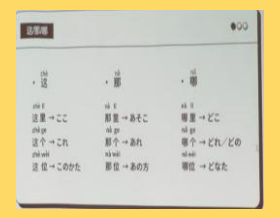
■会員維持増強委員会：大石莉帆会員
10 月 15 日（水）秋の夕べの交流会について

■財団プログラム委員会：青山素久会員
寺子しんづ事業の進捗状況報告

■ゴルフ同好会：河村公隆会員
パワー浜松 RC 青空例会の案内
10 月 5 日（日）ザフォレストカントリークラブ

王さん　中国語講座

講座では、中国語で頻繁に使われる基本単語「ここ(这儿)」「あそこ(那儿)」「どこ(哪儿)」が紹介され、それぞれの発音と意味の違いについて解説および練習が行われました。

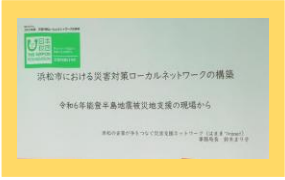


ハッピーバースデー

■鈴木孝尚さん　■加藤ひとみさん
■松本太一さん　■内田勝善さん
■石津真実さん　■知久　武さん
■河村公隆さん

議事

鈴木まり子様　卓話
「浜松市における災害対策ローカルネットワーク構築に向けて」



浜松災害支援ネットワーク（通称：浜松助け合いネット）は、2018 年に 17 社で発足し、現在は 126 社の企業と NPO が加盟する地域密着型の災害支援組織です。能登半島地震では珠洲市へ継続的にボランティアを派遣しており、講演当日の朝にも第 58 陣が現地に到着したことが報告されました。企業の寄贈によるコンテナを宿泊所として活用し、炊き出しなどの支援活動を行うなど、現場に根ざした支援を続けています。

同ネットワークの特徴は、公的なボランティアセンターでは対象とされにくい「事業者支援（生業支援）」に注力している点です。輪島市で被災した輪島塗事業者「U-an」では、約 4,000 点の漆器が被害を受け廃業の危機に直面しましたが、同ネットが商品を預かり浜松で代理販売を実施。約 200 万円の売上を届けたことで、同社はプレハブでの事業再開を果たすことができました。

また、被災地での活動を通じて、参加企業の防災意識や事業継続への関心が高まり、現場での経験から新たな製品開発も生まれています。例えば、床下の泥かきを行う際に「シャベルが重い」という声を受け、桜工業株式会社が軽量チタン製スコップを開発。さらに、「井戸の重要性」に気づいた静岡県西部コンクリート協同組合は、災害時の給水栓を設置するなど、支援活動が地域防災力の向上にもつながっています。

今後は「オール浜松」で災害に対応できる体制づくりを目指し、2025 年 4 月から日本財団の助成を受けた新事業が始動します。浜松市、社会福祉協議会、浜松商工会議所とともに、地理的なエリア別と分野別の両面からネットワークを構築し、関市地区・三方原地区・旧浜北地区の 3 地域でモデル的に展開していく予定です。

講演の最後には、有事に備え、地域や企業同士の関係を「顔見知り」から「無理が言える関係」へと深めていくことの大切さが呼びかけられました。日頃からのつながりや助け合いの積み重ねこそが、真に強い地域づくりにつながると強調されました。